

中種子特別支援学校における テーマ研修での取り組みについて



中種子特別支援学校 テーマ研修係

[中種子特別支援学校のテーマ研修]

○ 本校について



児童生徒数

小学部： 17人
中学部： 14人
高等部： 19人
計： 50人

職員数

小学部： 15人
中学部： 13人
高等部： 14人
計： 42人

[中種子特別支援学校のテーマ研修]

○ 令和6年度までの研修について

第4期 授業力向上プログラム

R4: ICTの活用方法について

R5: 児童生徒の主体性を引き出すために個別テーマを設定

第5期 授業力向上プログラム

R6: 各教科の資質・能力を育む授業づくり

それぞれのテーマに沿って、グループ別研修を行ってきた。

[中種子特別支援学校のテーマ研修]

○ これまでの「グループ別研修」の取組

経緯

職員の主体性を高め、活発に意見交換できる場を設けることを目的として、共通の課題やテーマに沿ってグループを編成した。

成果

少人数で学びたい内容を研究することができ、職員の主体的な取組が促進された。

課題：グループ間で授業実践を参観する機会が少なく、他のグループの取組内容や成果を共有しにくかった。

[中種子特別支援学校のテーマ研修]

○ 中種子特別支援学校の授業づくりの課題



各教科等を合わせた指導の授業において、活動が指導の中心となり、指導すべき教科の内容があいまいになっている。



日頃の授業づくりについて、職員同士が話せる機会が少ない。
授業改善のための意見交換ができていない。

[中種子特別支援学校のテーマ研修]

○ 令和7年度のテーマ研修の概要

テーマ

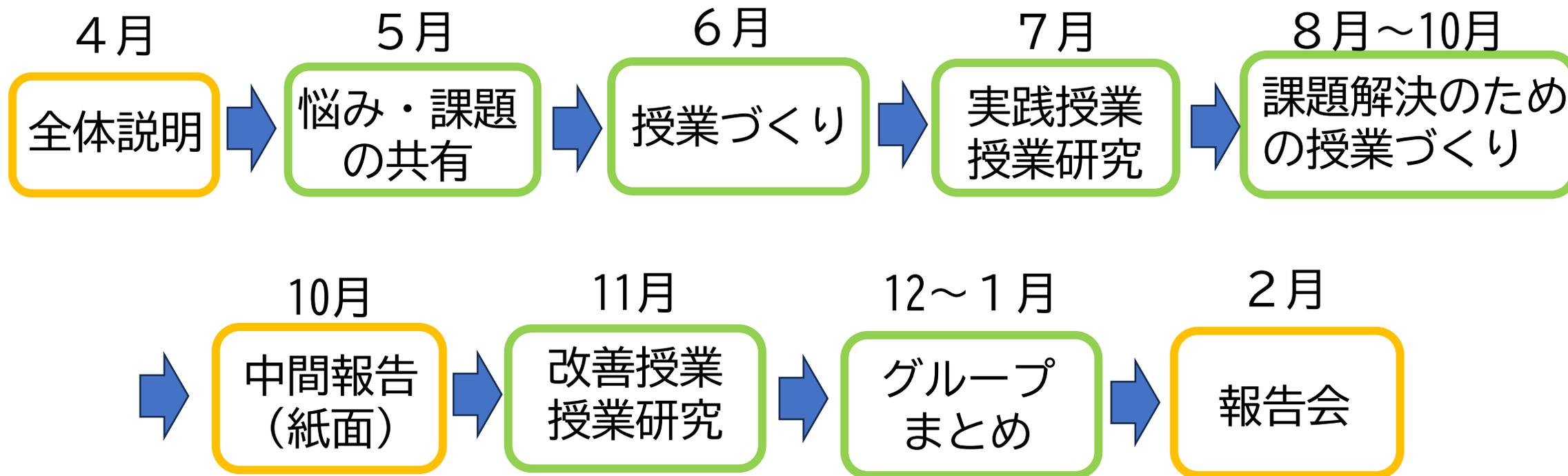
各教科の資質・能力を育むための授業づくり

- 生活単元学習について、指導すべき教科の内容を明確にした単元づくりや授業改善を行う。
- 日頃の授業についても授業改善のための意見交換ができるように同課程，同学部のグループで授業づくりを行う。

[中種子特別支援学校のテーマ研修]

○ 令和7年度のテーマ研修の概要

- ・ 研修の進め方（例）



[中種子特別支援学校のテーマ研修]

○ 指導主事との協働的取組

① 校内研修（5月19日）

講話「各教科等を合わせた指導について
～生活単元学習を中心に～」

○ 単元づくりについて

（目標設定，評価規準，評価計画）

○ 単元計画シートの活用について

単元計画シート①(各教科等を合わせた指導)

作成者

1. 単元の概要 児童生徒の実態(単元に関する各教科の実態を書く)

学部	学年・グループ
【概要】児童生徒の実態や本単元の内容等について	

単元名	指導の形態
取り扱う教科等 ・段階 ・内容 の整理	取り扱う教科等 段階 内容 育成を目指す資質・能力

2. 単元目標 学習指導要領の内容を踏まえて、単元目標を設定する

知識及び技能	
思考力、判断力、表現力等	
学びに向かう力、人間性等	

3. 評価規準 単元目標に準拠する形で評価規準を作成する

知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

4. 単元計画(評価計画) 学習内容に合わせてどの教科の内容を評価するかを記入する

時数	日	主な学習活動	取り扱う教科等の内容と評価する場面		自立活動 ※自立活動の指導目標との関連がある場合
1					<input type="checkbox"/> 健康の保持
2					<input type="checkbox"/> 心理的な安定
3					<input type="checkbox"/> 人間関係の形成
4					<input type="checkbox"/> 環境の把握
5					<input type="checkbox"/> 身体の動き
6					<input type="checkbox"/> コミュニケーション
7					
8					
9					
10					

[中種子特別支援学校のテーマ研修]

- 指導主事との協働的取組
 - ② グループ別研修へのオンライン参加
 - (6月25日：中・高D課程グループ)
 - (7月18日：小・中学部D課程グループ)
 - (8月28日：小学部C課程グループ)

Microsoft Teamsを活用し，オンラインでグループ研修に指導主事が参加
授業づくりへの助言やグループの課題に応じた資料提供



[中種子特別支援学校のテーマ研修]

- 指導主事との協働的取組
 - ③ 来校研修（10月30日，11月10日）

授業参観，授業研究会での助言，
グループ別研修への参加 等



来校研修とオンラインを活用した指導主事との協働的取組

グループの課題解決，授業改善の促進



[小学部知的標準課程グループの取り組み]

○ 悩み・課題の共有

制作活動など活動ありきの学習になりがち。

そもそも生単とは何か
つきつめる必要がある。

段階ごとの教科の目標を設定しないと評価が難しい。

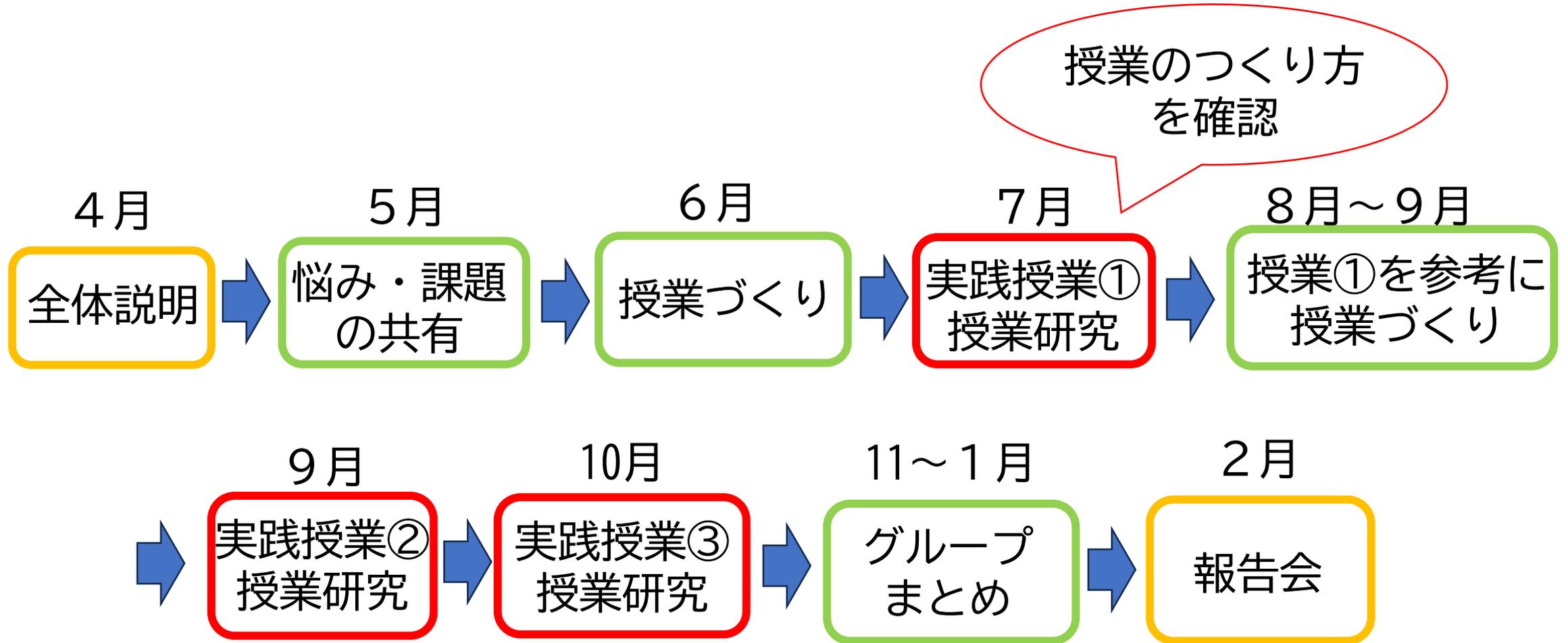
学習の積み上げをどう考えるか。同じ活動の繰り返しになってないか



研究内容

複数学年で同単元の授業づくりを行い、学年や段階に応じた指導内容、指導目標等を設定し、授業改善を図る。

[研修の進め方]



[実践授業① モデル授業]

○ 「夏祭りをしよう」

対象： 小学部1年(2段階)

指導内容：生活 工「遊び」，力「役割」
国語 A聞く・話す， B書く
図工 A表現



授業者の声

- 指導内容を検討するときに、あれもこれも入れ込むのではなく、取り扱う内容を絞ることを意識した。
- 単元目標の設定について、単元の特性と児童の実態から、子供たちに身に付けさせたい教科の力を明確にした上で、生単の目標設定とした。

[授業研究]

〈授業で参考にしたい点・感想〉

単元計画があることで児童が学習に見通しをもてた

授業内容を絞ったことで、授業のゴールを想像することができ、ブレずに授業ができた

国語の指導内容として単元をとおして定着させたい言葉(どうぞ, ありがとう)を繰り返し使っていた。

視覚教材の工夫で児童の興味・関心を引き出していた。

児童の段階や実態を考慮してワークシートの内容や、書く方法を調整していた

[授業①を参考にした授業づくり]

実践授業②（小3～6年対象）

理科の実験を意識した内容を取り入れたい！

月の見え方が変わる様子を映像で見るだけでなく
模型を使って実験することで興味・関心をもてる
のでは？



[実践授業②]

○「十五夜をしよう」

対象： 小学部3～6年（2・3段階）

指導内容：生活 サ「生命・自然」
国語 A聞く・話す
算数 B図形

授業者の声

- 中学部段階以降の理科につながる内容であることや、児童の実態から各教科の目標を設定した。
- 模擬授業を通して、指導内容を明確にしたり、実験方法を検討したりすることができた。



[授業研究]

実践授業②を終えて・・・

当初の計画から指導内容を絞ることで、メインの活動をじっくりできた

月の模型を使った実験が、児童の実感を伴う学びにとっても効果的だった。

実験を通して児童から出た言葉を使ってまとめたりできるとよかった。

教科の内容を段階的、系統的に指導する必要性を感じた。

[授業①を参考にした授業づくり]

実践授業③（小1・2年対象）

- ・ 実態として、お月見の経験が薄く、言語に課題のある児童だったので、生活科（お月見を知ること）と、国語科（言語の広がり）を中心に授業づくりをしたい。
- ・ お月見の準備や活動を行う中で、単元を通して学んでほしい言葉を毎時間繰り返し指導することで、お月見に関する言語を知ってほしい！



[実践授業③]

○「十五夜をしよう」

対象： 小学部1・2年（1・2段階）

指導内容： 生活 エ「遊び」, サ「生命・自然」
国語 ア(ウ)



授業者の声

- 取り扱う教科の内容を評価の対象となるものに絞り, 精選することができた。
- 自立活動の指導目標とも関連させ, 効果的な指導ができた。

当初の計画

4. 単元計画（評価計画）学習内容に合わせてどの教科の内容を評価するかを記入する

時数	日	主な学習活動	取り扱う教科等の内容と評価する場面		
			生活	国語	図工
1	9/29②	お月見祭りについて知る	ウ (ア) カ (ア) (イ) サ (イ)	Aア, イ, ウ	
2	9/30②	お月見祭りの準備 (月)	カ (ア) (イ) サ (イ)	Aア, イ	A (イ) 共通事項 (ア)
3	10/2③	お月見祭りの準備 (団子)	カ (ア) (イ)	Aア, イ	A (イ) 共通事項 (ア)
4	10/3③	相撲の準備 (しこ名, 化粧)	カ (ア) (イ)	Aア, イ	A (イ)
5	10/7②	相撲, 綱引きの練習	エ (ア) (イ)	Aア, イ	
6	10/8③	様々な相撲で遊ぶ	エ (ア) (イ)	Aア, イ	
7	10/9②③	お月見祭り (相撲, 綱引き)	エ (ア) (イ) カ (ア) (イ)		
8	10/10②	振り返り		Aウ, Bア	
9					
10					

検討後の計画

4. 単元計画（評価計画）学習内容に合わせてどの教科の内容を評価するかを記入する

時数	日	主な学習活動	取り扱う教科等の内容と評価する場面		
			生活	国語	図工
1	9/29④	お月見や相撲大会について知る	ウ (ア) サ (イ)	ア (ウ), Aウ	
2	10/1③	お月見祭りの準備 (月) [1, 2年合同]	カ (ア) サ (イ)	ア (ウ)	Aア (イ)
3	10/2②	お月見祭りの準備 (団子作り)		ア (ウ), Aウ	Aア (イ)
4	10/2③, ④	③すすきを取りに行く ④お月見祭りの飾り付け [③, ④ 1, 2年合同]	カ (ア)	ア (ウ)	
5	10/3③	しこ名, 化粧まわし作り		ア (ウ), Bア	Aア (イ)
6	10/9③	相撲の練習 (合同)	エ (ア)	ア (ウ)	
7	10/10③	お月見相撲大会 [C課程合同]	エ (ア) サ (イ)	ア (ウ)	
8	10/14③	振り返り		Aウ, Bア	
9					

取り扱う内容の精選ができた！

[授業研究]

実践授業③を終えて・・・

生活科の「遊び」を指導することにおいて、相撲のルールやきまりをイラストで分かりやすく示したことが効果的だった。

相撲の活動を通して、自立活動の指導目標に迫ることができた。

国語科の目標を達成するためには、言語活動の面がやや弱かった。言葉を使うタイミングや機会をもっと授業の流れに織り込んでいきたい。

児童自身が何を学んだか言葉で表現できるようにしていきたい。

[研修の成果]

- 合わせる指導内容を明確にし，単元づくりを行ったことで，普段の教科別授業で十分に取り扱いしていない内容を重点的に取り入れながら授業づくりを行うことができた。
- 各教科の内容を意識した目標設定を行うことで，活動ありきの指導を見直すきっかけとなった。
- 授業の中に，各教科の学びをねらう活動場面を設定したことで，教科の学びを意識した授業構成や，教師の発問や言葉掛けの見直しの必要性に気付き，授業改善につながった。

[研修の課題・展望]

- 多くの職員が研修を通して、授業についての意見交換や教材・教具についての検討などを行うことができたが、日常の授業づくりにまで反映させることはまだ難しい。
- 1つの単元に取り入れる各教科の内容や段階の選定に迷うことが多かった。学習指導要領の読み込みや星本を活用しながら、更なる授業改善や教育課程の見直しにつなげていきたい。